

『すごい！ぼくの町の給食』

香川県まんのう町立満濃南小学校 四年 齋部 陽翔

ぼくは、まんのう町立満濃南小学校という学校に通っています。ぼくが、学校生活の中で一番楽しみにしているのが、給食の時間です。

給食を作る調理員さんは、ぼくたちよりも早く学校に来て調理を始めています。給食のいいにおいが教室までただよってくる、自然におなかがいきてきて、給食の時間が待ち遠しくてたまりません。

ぼくの小学校では、ランチルームで友達や先生みんなと給食を食べているのですが、あるとき教頭先生が、

「まんのう町の給食は本当においしいね。」

と言って、ぼくたちよりもうれしそうに、たくさん食べていました。

ぼくは、今までまんのう町のこども園や学校に通ってきたので、この給食しか知りません。ぼくは、教頭先生がまんのう町の給食が特別なように言った理由が知りたくて、給食について調べてみることにしました。

まんのう町は、「自園」・「自校」式調理という方法で給食を作っているそうです。これは、給食センターのように一つの場所で調理してこども園や学校まで運ぶのではなく、それぞれのし設の中にある給食調理場で調理することで、みんなができたての給食を食べることができる方法です。

ぼくは、温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たいまま食べられることが当然だと思っていたので、この方法がまんのう町どく自の工夫だと知っておどろきました。

それに、一生けん命作ってくれる調理員さんのすがたを近くで見られることで、おいしさが何倍にもなるような気がしました。

その他にも、「地場産」のお米や野菜を積極的に使っていることも、まんのう町の特長だそうです。地元の新せんな野菜を、使う日の朝に農家の人に配達してもらうことで、栄養もせん度も保つことができます。そのおかげか、苦手で家では食べられなかったナスビや小松菜などの野菜を、ぼくは給食でこく服することができました。まんのう町特産のひまわりオイルが入った「ひまわりオイル入りのミートソーススパゲティ」は、今ではぼくの大好きなおすすめメニューです。

毎日食べている給食が、まんのう町ならではの工夫を重ねたすばらしいものだったことが分かって、ぼくは、ますます給食が好きになりました。そして、給食に関わってくれているたくさんの人に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

二学期は始業式の日から給食が始まります。

まず、ぼくは、給食について調べたことを教頭先生に伝えたいです。そして、給食の時間には、みんなで一しよに「いただきます」「ごちそうさま」と大きな声で言って、これからも残さずに給食を食べようと思います。